

平成22年6月市議会定例会一般質問発言通告書

◎ 個人質問

20番 森本典夫

1. 子どもの医療費の公費負担を通院も中学校卒業までに引き上げては

現在、医療費の患者負担を入院についてのみ中学校卒業まで（通院は小学校3年まで）公費で賄うことになっています。

私のところには、多くの市民から通院も入院と同じように中学校卒業まで無料にしてほしいという声が寄せられています。

県もこの程、該当年齢の引上げをしました。その分だけ市の負担が軽減されるわけですから、この際、公費負担の該当年齢を思い切って「通院」も中学校卒業までに引き上げてはどうですか。

2. ごみ出し用の指定ごみ袋の容量の少ないものを作成してはどうですか。また、袋代が「高い」という声にこたえて引き下げてはどうですか

現在、家庭ごみの排出には市指定の「ごみ袋」を使用していますが、少人数家庭では、15ℓ袋でも大きすぎて無駄になると感じておられます。

といって特に生ごみを袋がいっぱいになるまで自宅に保管しておく、これからは悪臭が出て大変です。これの解決方法は、15ℓ袋より少ない容量の袋を作るしかないと思います。この市民の声にこたえて容量の少ない袋を作成してはどうですか。

これらを判断するためにも、ごみ出しの実態調査を行ってはどうですか。

また、このたびアンケートを考えておられるようですが、それによりますと、ごみ袋の値段についての市民の考えをお尋ねする質問が欠落していると思います。「高い」という声が強いのであえて入れなかったのでしょうか。「高い」との声にこたえて引き下げてはどうですか。

3. 女性の管理職への登用を積極的に進めるよう考えては

市長は、現時点で女性の管理職登用をどの位にすべきだとお考えでしょうか。合併当時(平成17年4月1日現在)課長補佐級以上の女性の管理職は全体の9.64%の8人で、部次長級も3名いました。平成19年以後は徐々に減少し、今年度の平成22年4月1日時点では、部次長級、課長級はいなくなり、課長補佐級が5名で、管理職全体の6.25%に減ってしまっております。

この現状から判断し、女性の管理職への登用を積極的に進めるべきだと考えますが、市長は、どうお考えでしょうか。

4. 市有墓地の管理を徹底すべきではないですか

現在、市は、市有墓地60カ所の管理をほとんどやっていないというのが実態のようです。早急に実態調査を行い、墓地条例の11条(墓地の返還)、12条(使用許可の取り消し)に沿って処理し、墓地を求めておられる市民に使用してもらえるよう条件整備をすべきではないですか。

5. 特別養護老人ホームの実態把握と施設増を

市内全ての特別養護老人ホーム(特養)の入所者数、待機者数などの実態調査を行っていますか。もしやっていないようでしたら実態調査を行い、特養に対する市としての対応策を打ち出すべきではないですか。

市として特に待機者が非常に多い現状をどう解決すべきだとお考えでしょうか。また、施設増を積極的に進める必要があると考えますがどうですか。

6. 薬師橋架け替えと、たちまちの処置として欄干を高くしてはどうですか

現在の「薬師橋」は昭和37年に架けられたもので48年が経過しています。架け替えを検討する時期に来ているのではないのでしょうか。

また、狭いということもあって、歩行中や自転車で通っていて大きい車が来た時には、歩行者や自転車は非常に危険で、欄干が低いので、川に転落する危険もあります。

まず応急の処置として、両側の欄干を高くするなど、市民の安全を守る対策を講じるべきだと考えますがどうですか。

1. 井原市国民健康保険事業について

- ①長年まじめに国保税を支払ってこられた加入者がどうしても払えなくなった場合に対する市の相談窓口などの対応について伺う。
- ②国保税未納者となった場合、本人、家族が失う市民の権利について、どのようなものが考えられるか伺う。
- ③国保加入者1人当たりの保険給付額は、20年度の決算で県内15市中高いほうから3番目となっているが、市長の政治信条である「健康寿命日本一の街づくり」のかけ声とどのように合致するのか。瀧本市長就任以来4年間の、この事業に対する取り組みと成果について伺うとともに、今後このフレーズを言い続けるのか伺う。
- ④医療費抑制のための特定健康審査や人間ドックなど保健事業に対する対象者の受診率はどのようになっているか伺う。また、受診率向上に向けて何を努力、工夫されているか伺う。
- ⑤国保税加入者負担のあり方について、保険者が現在のまま考え方を改めない場合、23年度以降、今後の加入者負担はどのように推移するのか伺う。

2. 中学校卒業まで医療費の無料化について

通院まで含めた中学校卒業までの医療費無料化の実施については、財政問題だけでなく、医療現場に及ぼす悪影響もあるとの市長の考えについて、以下の2点について伺う。

- ①中学校卒業まで医療費を入院、通院ともすべて無料化すると、子ども医療費の総額は1億4,700万円になるとのことだが、本市の持ち出しはどれほどか伺う。
- ②医療現場に及ぼす悪影響等、市長が懸念される考え方について伺う。

3. 定住促進に関する業務の一体化の必要性について

市長は本年2月議会で、必要性は認めながらも今後の検討課題であると答弁されたが、近隣自治体との連携の重要性を考えれば、年度途中でも取り組むべきではないか伺う。

10番 川上武徳

1. 口蹄疫対策について

宮崎県において発生した口蹄疫により、多くの家畜が殺処分されているが、本市においてもいつ発生するかわからない状況である。

本市での今後の防疫体制及び対策について伺う。

2. 四季が丘団地への企業誘致と、市有地の有効活用について

①本市では、現在、四季が丘団地において企業誘致を進めているが、いまだに誘致できていない状況である。現在の状況と今後の見通しについて伺う。

②市及び土地開発公社が所有する地蔵平の土地の有効活用について伺う。

3. 日中友好による地域活性化について

日中友好の先駆者である内山完造先生の築き上げた上海市虹口区において、井原市のPRを図るとともに、特産品を販売するなど友好関係を深める事業を展開し、地域の活性化につなげてはどうか伺う。

1. 公共施設及び公民館のトイレの改修について

少子化・高齢化の中、高齢者の方々はいつまでも元気で頑張るため公民館の各種講座や趣味の会へ多くの人に参加されているが、トイレが和式のために非常に辛いとの声を聞く。

ぜひ高齢者や子供達にもやさしい施設とするため、トイレを和式から洋式へ変更してはどうか伺う。

2. 地域集会所等の施設整備事業補助について

地域集会所等で修繕を行うと、以後3年間は同じ建物への対応はできないとあるが、緊急の場合や台風等の被害においても対応できないのか、特例等の措置を含め、市の考え方を伺う。

1. 平櫛田中旧宅の有効活用について

①東京都台東区上野桜木町にある平櫛田中先生の旧宅は、外壁の損傷などその保存状態が極めてひどい状態です。井原市が所有するこの建物を、東京都市圏における、井原市の情報発信の拠点として整備してはどうか伺います。

②現在、田中旧宅の保全活動に取り組まれているNPO法人「たいとう歴史都市研究会」と協力し、井原市のPRを推進してはどうか伺います。

2. 笑って健康元気アップ事業について

①現在、保健センターを中心に福祉課、介護保険課、生涯学習課等で、笑って健康元気アップ事業を推進していますが、市長は現在までの取り組みで十分であると考えておられますか伺います。

②この6月より市内各公民館に公民館主事が配置されましたが、笑って健康元気アップ事業の充実を図るため、「健康」をテーマとした公民館活動を推進してはどうか伺います。

1. 観光行政について

第6次総合計画では、「観光地としての魅力をさらに高めるためには、本市独自の芸術・文化・歴史を生かした観光地づくりに加え、テーマ性・ストーリー性をもたせた観光資源のネットワーク化を図る」とありますが、取り組みの現状と今後の展開について伺います。

15番 河合建志

1. 県の中山間特別支援事業について

県は2008年から過疎、高齢化で存続が危ぶまれる集落対策として、集落機能再編・強化モデル事業のモデル地域の一つに芳井町明治池井地区（井山と池谷集落）を決めた。市も側面より強力で支援されたが、2年間の成果はどうか。また、市はその成果を芳井町と美星町の中山間地域全域に展開し、高齢化過疎化が急速に進む厳しい状況を少しでもくい止めるべきではないか。今後の振興策について伺う。

2. 小田川の自然環境の保護・保全について

昨年6月定例会で、昔の小田川の清流を取り戻すことを強く提言した。その後、小田川への市民の関心が高まりボランティアで個人で草刈りや雑木を切ったり、また、2～3の市民団体は行政とタイアップして取り組み、その成果が目に見えてきた。このように市民の意識改革が進んだ機会をとらえて、行政は小田川沿いの全自治会へボランティアでの協力を要請し、また、側面より強力で支援してはどうか。市長のご所見を伺う。

1. 健康診査・ジェネリック医薬品・公費助成の充実について

1) 時代の変化による生活スタイルの変遷や食生活が要因と思われる生活習慣病が急増する中、2008年から特定健診（メタボ健診）・保健指導の取り組みがスタートしました。その取り組みには、早期の健診による各種の疾病要因の発見と保健指導による生活習慣の改善や疾病回避、早期治療により膨らみ続ける医療費の抑制効果が期待されています。そこで、現状の全国的に低い健診状況の改善のため、健診受診率の数値目標を2012年までに65%に高めることが謳われています。あわせて保健指導の受診率のアップも謳われています。現在、本市としても受診率向上に向けた取り組みをされていますが、現状の受診率について、また、受診率向上に向けた現状と今後の取り組みについて伺います。

2) 医療費の抑制に対する方策として、国ではジェネリック医薬品の利用推進に力を入れています。本市としてもジェネリック希望カード付パンフレットなどを全戸配布し普及に取り組まれているところですが、カード配布があったことも知らない市民も多くおられるのが現状であるようです。今後、この取り組みの成果を期待するためには、一人でも多くの市民のジェネリック医薬品への関心と理解が不可欠であります。本市として、市民への情報提供にさらに力を入れること、また、再度のカード付パンフレット配布も必要と思いますが、本市の考えについて伺います。

3) 日本人の三大死因はがん・心臓病・脳卒中で、4番目が肺炎であり、毎年10万人が亡くなっている現状にあります。その予防策として肺炎球菌ワクチンがあり、本市としても70歳以上を対象に生涯1回、3,500円の公費助成を本年度から導入の運びであり大いに期待をしているところです。今回の提案は細菌性髄膜炎を防ぐ「ヒブワクチン」と小児用肺炎球菌ワクチンの助成についてであります。

ヒブとはインフルエンザ菌b型のことで、せき、くしゃみで飛び散ることで感染が拡大し、抵抗力の弱い5歳以下の乳幼児に感染した際には髄膜炎などを発症し、そのうち約5%の乳幼児が亡くなり、約25%は知的障害や聴覚障害などの後遺症が残るとされる怖い感染症です。そのため乳幼児のお母さんたちの関心も

高く、高額な費用負担でも接種を希望する人が多いようです。標準的な費用は1回7,000円～8,000円で、計4回の接種が必要とされ、総額が約3万円と高額になるため。公費助成の実施に取り組まれている自治体も出ています。また、肺炎球菌は小児の場合、細菌性髄膜炎のほかに、肺炎や難治性中耳炎の原因にもなるとされています。しかし、ワクチン接種により小児期だけでなく高齢期まで肺炎を防ぐ効果が続く利点があるようです。こうした将来的に医療費の抑制効果が期待できるワクチン助成に対して、本市としても前向きな検討をしていただきたいと考えますが、市長の思いを伺います。

2. 美星天文台・中世夢が原にオートキャンプ場の整備を

美星町は吉備高原の西に位置し、気流が安定していること、また、井原市光害防止条例により星空が観察しやすい環境にあることから、多くの天文ファンが訪れています。

また、美星町は全国的にも知名度が高く、高速道路料金の値下げにより、今後、マイカーで訪れる人もふえることが予測される中で、宿泊施設の不足が懸念されます。しかし、宿泊施設建設には多額の建設費用が要ることから、オートキャンプ場の整備をすることで十分対応ができると思いますが、本市のお考えを伺います。

3. 校庭の芝生化について

21年9月議会で、校庭の芝生化について提案をしました。その時の答弁として、教育長は芝生化に取り組んでいる鳥取を視察すると答弁されました。視察の成果と今後の対応について伺います。

5番 西田久志

1. 国民健康保険事業の現状と今後の対策について

税率改正をしなければならなかった国民健康保険事業特別会計の現状と財政運営の考え方について伺います。

また、医療費抑制の取り組みについて伺います。

2. 結婚適齢期を迎えた者の婚活支援について

近年、少子化が急速に進み、20年後には成人式の参加者が半減すると言われています。

少子化に歯止めをかけるため、早急に対策を取らなければならない中、本年度は、井笠地域で出会いの場等の事業が展開されていますが、事業の内容と今後の取り組みについて伺います。

また、井原市独自の婚活支援事業について伺います。

3 番 上 野 安 是

1. ワクチン接種費用の公費助成について

乳幼児の細菌性髄膜炎を予防するヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンの接種費用を公費助成してはどうか伺う。

2. 障害者福祉サービス提供体制の充実について

市内に点在している障害者福祉施設を集約し、福祉・保健・医療が一体化した施設を整備してはどうか伺う。

1 3 番 井 口 勇

1. まちづくり支援について

市内各地区では、歴史・文化・自然などの特色を活かし、創意工夫を凝らしたまちづくりを自主的・主体的に取り組んでいただいているが、こうしたまちづくりに対する支援のさらなる充実について伺う。

2. 観光行政について

①市内観光地の県内外へのPR活動及び観光ルート作成について伺う。

②日本への中国人観光客が急増する中、井原市への中国人観光客の誘致活動及び受け入れ体制について伺う。

1. 介護保険制度における地域密着型サービスについて

現在、介護保険制度で実施されている地域密着型サービスについては、利用が市内に限定されているが、他市町村のサービスを受ける事ができる体制を構築できないかお伺いします。

2. 協働のまちづくりについて

市長の公約である協働のまちづくり市民推進室を、平成19年度から鋭意開催されていますが、現在までの成果をどのように分析されていますかお伺いします。

また、本年度の予定と今後の展望についてお伺いします。

1. 市長としての公約実現指数について

市長就任からまもなく4年の任期が来る中、任期中の公約をどのくらい実現できたのか、自己採点的な数字を伺う。

2. 参議院議員選挙、市長選挙が本年間近にある中、市内投票所の状況について

井原市内には41カ所の投票所がありますが、土足のまま投票可能な投票所、土足では投票できない投票所それぞれの状況を伺う。

3. し尿汲み取り、再資源化施設の指導内容について

①2月定例会において質問したし尿汲み取り量に対しての井原市の指導内容について伺う。

また、平成15、16、17年及び21年のし尿汲み取りの状況を伺う。

②再資源化施設への岡山県からの行政指導、井原市からの指導内容及び業者側の対応を伺う。

4. 井原市の産業振興について

- 1) 産業振興ビジョンを策定するに当たって、策定委員会、作業部会を作られ、策定委員会は3回、作業部会は5回の会議を開催されたが、どのような事をそれぞれの委員会でお話になり、どのような結果まで出たのか、また先進地の視察はどこに行かれ、どのような勉強をされたか伺う。
- 2) 市内に本社があり、海外へ進出している企業について伺う。
- 3) 中国上海市に進出している企業について伺う。
- 4) 本年度から5年間、どのように課題に取り組んで行くか、産業振興ビジョンの骨格について伺う。